

報道機関各位

一般財団法人 とうほう地域総合研究所
理事長 阿部 隆彦

「2018年夏季ボーナス及び暮らし向き」アンケート調査結果について

当研究所では、毎年「夏季ボーナス及び暮らし向き」アンケート調査（5月調査、6月発表）を実施しています。この度、2018年夏季の調査結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。

なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」7月号(6月27日発行)及び当研究所ホームページに掲載いたします。

〈要旨〉

ボーナス受取見込額と今後1年間の暮らし向きについて、変わらないとする割合が増えた。ボーナスの使い道も消費や貯蓄に向ける割合が減り、現実的な生活維持に充てる傾向が増えており、景気に対する見通しは慎重的な見方が強い。

1. ボーナスアンケート

(1) 受取見込額の増減

「増える」が14.1%、「変わらない」が65.6%、「減る」が12.9%となり、「変わらない」が6割以上を占めた。「増える」「減る」は、どちらもわずかに減少する動きがみられた。

(2) ボーナスの使い道

「買物」が65.6%（前年比△1.1㊦）と最も高い割合となった。「レジャー費」60.1%（同△3.8㊦）、「貯蓄」53.7%（同△3.5㊦）が続いた。買物やレジャー、貯蓄に向ける割合が減少する一方で、「生活費の補填」は34.2%と前年比で+2.6㊦上昇した。

2. 暮らし向きアンケート

(1) 今後1年間の暮らし向き

「変わらない」が79.3%（前年比+1.8㊦）を占めた。「良くなる」が4.9%（同△2.6㊦）、「悪くなる」が15.8%（同+0.8㊦）となり、暮らし向きは当面変わらないと判断している。

(2) 今後1年間の収入見込み

「変わらない」が7割以上を占めた。前年と比べ「増加する」「減少する」が下降した。

3. 「車の購入」に関する調査

(1) 購入したい車の動力タイプ

「ガソリン車」38.8%、「(プラグイン)ハイブリッド車」35.8%、「電気自動車」3.3%となった。

(2) 車を選ぶ際に優先度の高いもの

「経済性(燃費)」が最も高く、ガソリン価格の高騰などから、燃費が良く経済的な車を選ぶ傾向がうかがえる。

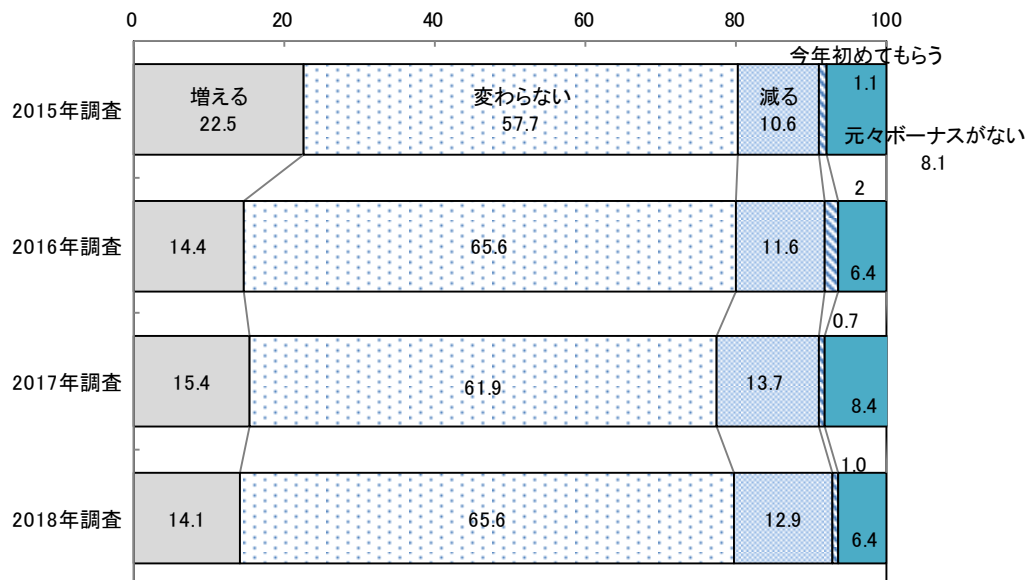
1. 2018年夏季ボーナスアンケート調査結果

(1) 受取見込額の増減

2018年の受取見込額は、「増える」が14.1%（前年比△1.3㊦）、「変わらない」が65.6%（同+3.7㊦）、「減る」が12.9%（同△0.8㊦）となり、「変わらない」が前年を上回って6割以上を占めた。一方、「増える」「減る」は、どちらもわずかに減少する動きがみられた（図表1）。

図表1-1 ボーナス受取見込額の対前年比(全体:2015年~2018年)

(単位:%)

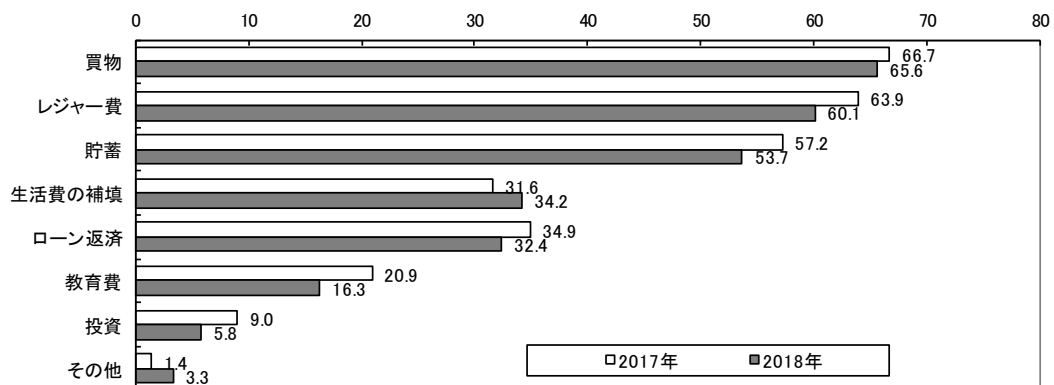


(2) ボーナスの使い道

ボーナスの使い道の上位3位までをみると、「買物」が65.6%（前年比△1.1㊦）と最も高い割合となった。次いで、「レジャー費」60.1%（同△3.8㊦）、「貯蓄」53.7%（同△3.5㊦）の順となるが、いずれも前年を下回っている。「生活費の補填」は34.2%と前年比で+2.6㊦上昇している（図表2）。

図表2 ボーナスの使い道（複数回答）

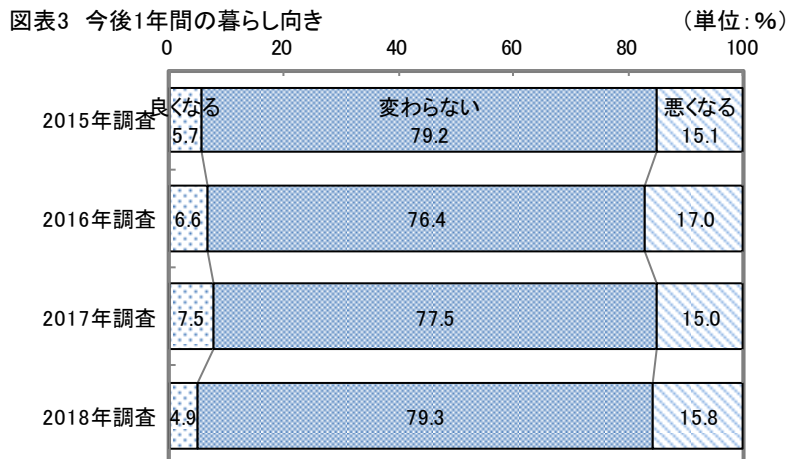
(単位:%)



2. 暮らし向きアンケート調査結果

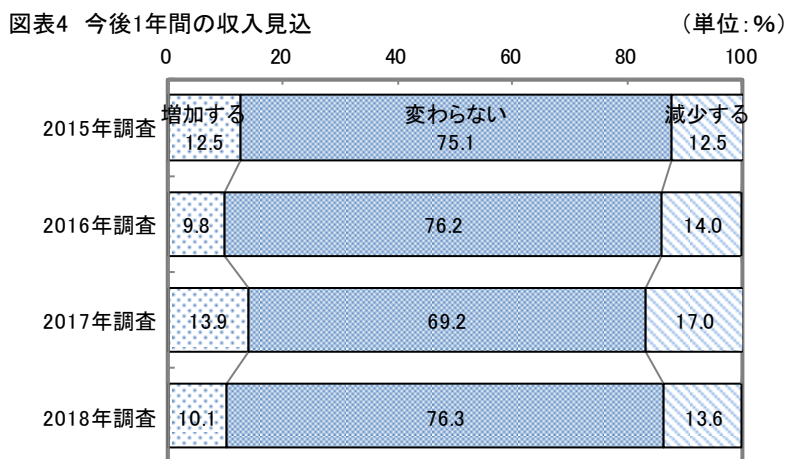
(1) 今後1年間の暮らし向き

今後1年間の暮らし向きについては、「良くなる」が4.9%（前年比△2.6 ㊦）、「変わらない」が79.3%（同+1.8 ㊦）、「悪くなる」が15.8%（同+0.8 ㊦）となり、「変わらない」とする回答が前回調査を上回り、全体の8割近くを占めて最も高い割合となった（図表3）。また、「悪くなる」の割合が前回調査と比べて上昇する一方、「良くなる」の割合は前回調査よりも下降した。



(2) 今後1年間の収入見込み

今後1年間の収入見込みは、「増加する」が10.1%（前年比△3.8 ㊦）、「変わらない」が76.3%（同+7.1 ㊦）、「減少する」が13.6%（同△3.4 ㊦）と、「変わらない」が、前回調査比で上昇し、7割以上を占めている。一方、「増加する」「減少する」はどちらも前回調査と比較して下降する動きがみられた（図表4）。



3. 「車の購入」に関する調査結果

「車」に関して、「電気自動車」や「自動運転」など様々な新しい技術が話題になっている。そこで、今回のアンケートでは、日常生活に欠かせない車について取り上げ、車の購入や買替えをする際に考慮する点などの意識調査を行った。

(1) 購入したい車の動力タイプについて

今後購入したい車の動力タイプについて、「ガソリン車」が38.0%と最も高く、次いで、「(プラグイン)ハイブリッド車 (PHV・HV)」が35.8%となった。「電気自動車 (EV)」は3.3%にとどまった(図表5)。近年、充電施設が全国的に増加しているものの、充電時間が長く航続距離が短いことや車両価格が高いことなどから、現段階ではまだ実用的でないと考えていることがうかがえる。

図表5 購入したい車の動力タイプ

(単位:%)

	男 性						女 性						全体
	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計	
ガソリン車	40.5	45.6	37.6	31.4	50.0	39.1	38.5	52.9	20.9	44.7	16.7	37.4	38.8
(プラグイン)ハイブリッド車 (PHV・HV)	38.1	36.8	40.0	43.1	25.0	39.1	19.2	23.5	46.5	28.9	66.7	32.7	35.8
未定	9.5	12.3	15.3	19.6	25.0	14.8	38.5	20.6	23.3	26.3	0.0	25.2	19.3
電気自動車 (EV)	4.8	3.5	2.4	3.9	0.0	3.3	0.0	2.9	9.3	0.0	0.0	3.4	3.3
(クリーン)ディーゼル車	4.8	1.8	3.5	2.0	0.0	2.9	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	2.0
燃料電池車 (FCV)	2.4	0.0	1.2	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.7	0.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

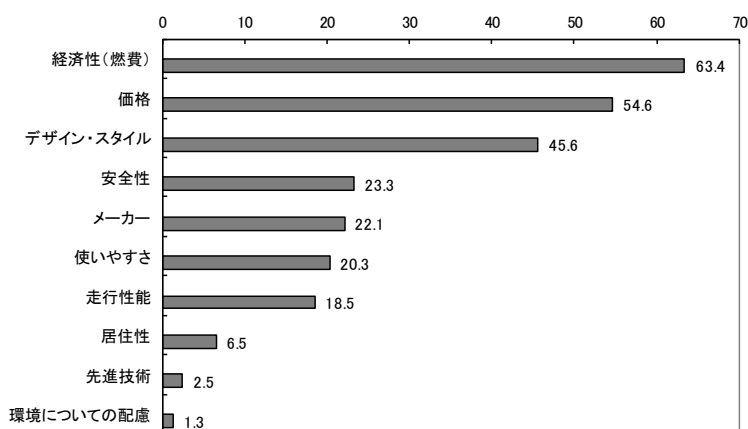
※ は各項目で最も割合の高い年齢層を示す。

(2) 車を選ぶ際に優先度の高いもの(複数回答)

車を選ぶ際に何を優先にするかを尋ねたところ、「経済性(燃費)」が63.4%と最も高かった。次いで、「価格」が54.6%、「デザイン・スタイル」が45.6%、「安全性」が23.3%などとなった。現状において、ガソリン価格が高騰していることなどから、県民は車を選ぶ際に燃費が良いなどの経済性を最優先しているものとみられる(図表6)。

図表6 車を選ぶ際に優先度の高いもの(複数回答)

(単位:%)



<アンケート調査要領>

(1) 調査場所及び対象者

福島県内の会社員・官公庁職員等 805人

(2) 調査実施期間

2018年5月8日～5月24日

(3) 回答者

512人(回答率:63.6%)

① 回答者の性別

男性: 59.6% 女性: 40.4%

② 年齢別構成

年齢	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
構成比	17.7%	22.3%	32.8%	23.4%	3.8%	100.0%

(4) アンケート内容

- ① 今年の夏のボーナスについて
- ② 暮らし向きについて
- ③ 車の購入について

本件に関する質問・お問い合わせ先

担当: 大塚 TEL024-523-3171